

CASBEE® 熊本《新築》【性能表示】

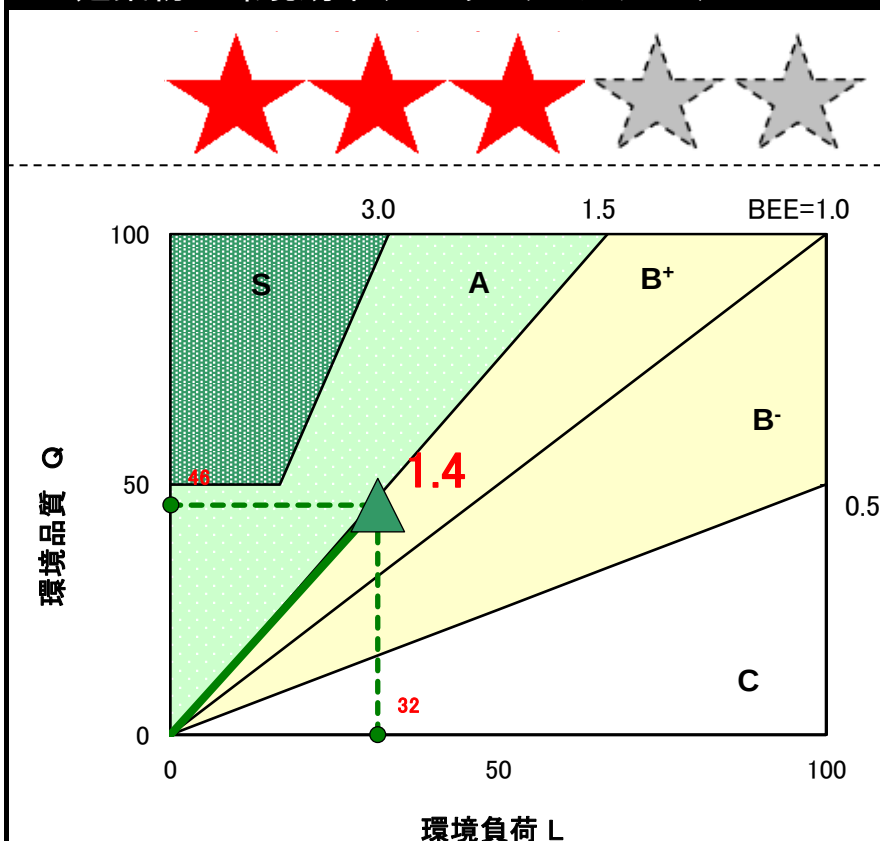
1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)天水小学校	階数	地上3階
建設地	玉名市天水町小天宇池尻7027,7029	構造	RC造
用途地域等	都計外(準都計外)	平均居住人員	410 人
省エネ:地域区分	6地域	年間使用時間	2,700 時間/年
建物用途	学校,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2027年1月 予定	評価の実施日	2024年9月26日
敷地面積	35,134 m ²	作成者	株式会社 ライト設計
建築面積	1,617 m ²	確認日	2024年9月26日
延床面積	2,954 m ²	確認者	株式会社 ライト設計

外観パース等

外観図の貼り付けは、
【外観図】シートへ貼り付けしてください。

2 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率（BEEランク&チャート）



BEE = 1.4

$$\blacksquare \text{BEE(環境効率)} = \frac{\text{Q (環境品質)}}{\text{L (環境負荷)}}$$

■環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B ⁺	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B ⁻	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ライフサイクルCO₂ 排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

■ ライフサイクルCO₂排出性能(ランク表示)



排出率

83%

3 熊本県重点評価結果

重点事項総合評価



評価点

83

評価点

■熊本県重点評価基準

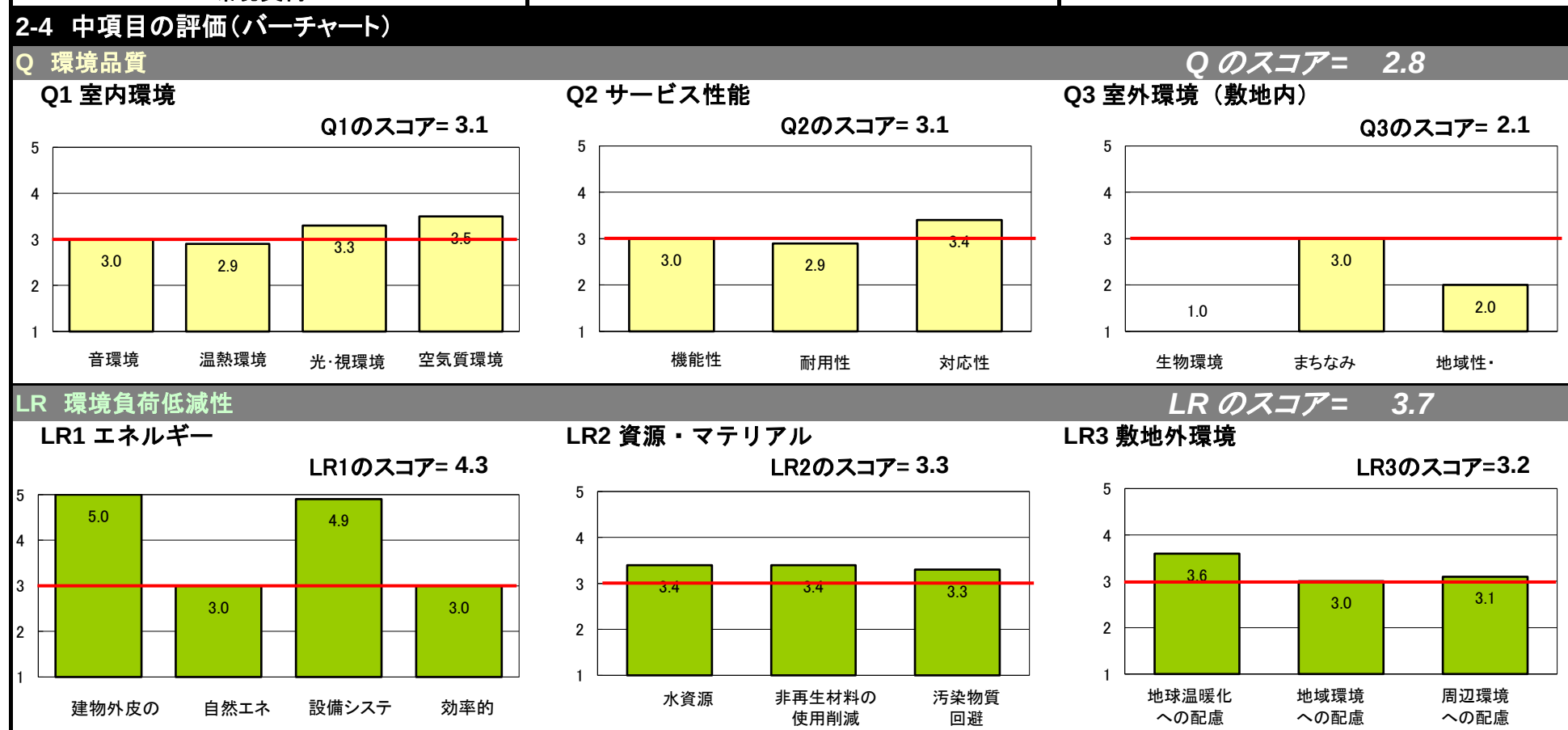
判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	
80点以上100点未満	
60点以上80点未満	
40点以上60点未満	
40点未満	

※評価点は、100点以上が推奨です。

■ 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD NC 2016(v3.0)

外観パーズ等^{※E!}
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください



Page : 1/1

CASBEE-建築(新築)2016年版 (仮称)天水小学校		
スコアシート 実施設計段階		
配慮項目		
Q 建築物の環境品質		
Q1 室内環境		
1 音環境		
1.1 室内騒音レベル		
1.2 遮音		
1 開口部遮音性能		
2 界壁遮音性能		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		
1.3 吸音		
2 温熱環境		
2.1 室温制御		
1 室温		
2 外皮性能		
3 ゾーン別制御性		
2.2 湿度制御		
2.3 空調方式		
3 光・視環境		
3.1 昼光利用		
1 昼光率		
2 方位別開口		
3 昼光利用設備		
3.2 グレア対策		
1 昼光制御		
3.3 照度		
3.4 照明制御		
4 空気質環境		
4.1 発生源対策		
1 化学汚染物質		
4.2 換気		
1 換気量		
2 自然換気性能		
3 取り入れ外気への配慮		
4.3 運用管理		
1 CO ₂ の監視		
2 喫煙の制御		

評価点が3超の項目

水色セル欄に数値やコメントを記入

⇒Q1～Q3シートやLR1～LR3シートにおける採点の根拠に倣って、要旨を記入してください

評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
	0.40	-	-	2.8
	0.40	-	-	3.1
3.0	0.15	-	-	3.0
3.0	0.40	-	-	
3.0	0.40	-	-	
1.0	0.30	-	-	
5.0	0.30	-	-	
3.0	0.20	-	-	
3.0	0.20	-	-	
3.0	0.20	-	-	
2.9	0.35	-	-	2.9
2.8	0.50	-	-	
4.0	0.60	-	-	
1.0	0.40	-	-	
-	-	-	-	
3.0	0.20	-	-	
3.0	0.30	-	-	
3.3	0.25	-	-	3.3
3.0	0.30	-	-	
3.0	0.60	-	-	
-	-	-	-	
3.0	0.40	-	-	
4.0	0.30	-	-	
4.0	1.00	-	-	
3.0	0.15	-	-	
3.0	0.25	-	-	
3.5	0.25	-	-	3.5
3.0	0.50	-	-	
3.0	1.00	-	-	
3.3	0.30	-	-	
3.0	0.33	-	-	
4.0	0.33	-	-	
3.0	0.33	-	-	
5.0	0.20	-	-	
-	-	-	-	
5.0	1.00	-	-	
-	0.30	-	-	3.1
3.0	0.40	-	-	3.0
3.0	0.40	-	-	
-	-	-	-	
-	-	-	-	
3.0	1.00	-	-	
3.5	0.30	-	-	
3.0	0.50	-	-	
-	-	-	-	
4.0	0.50	-	-	
2.5	0.30	-	-	
3.0	0.50	-	-	
2.0	0.50	-	-	
2.9	0.30	-	-	2.9
3.0	0.50	-	-	
3.0	0.80	-	-	
3.0	0.20	-	-	
2.8	0.30	-	-	
3.0	0.20	-	-	
2.0	0.20	-	-	
3.0	0.10	-	-	
3.0	0.10	-	-	
3.0	0.20	-	-	
3.0	0.20	-	-	
3.0	0.20	-	-	
3.0	0.20	-	-	
3.0	0.20	-	-	
3.0	0.20	-	-	
3.0	0.20	-	-	
3.0	0.20	-	-	
3.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性				3.4	0.30	-	-	3.4
3.1 空間のゆとり				4.6	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	階高平均値:3.95m 0.1≦壁長さ比率:0.16<0.3	5.0	0.60	-	-		
2	空間の形状・自由さ		4.0	0.40	-	-		
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	-	-		
3.3 設備の更新性			3.0	0.40	-	-		
1	空調配管の更新性	3.0	0.20	-	-			
2	給排水管の更新性	3.0	0.20	-	-			
3	電気配線の更新性	3.0	0.10	-	-			
4	通信配線の更新性	3.0	0.10	-	-			
5	設備機器の更新性	3.0	0.20	-	-			
6	バックアップスペースの確保	3.0	0.20	-	-			
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.1	
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-	1.0	
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0	
3 地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30	-	-	2.0	
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		2.0	0.50	-	-		
3.2	敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50	-	-		
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.7	
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.3	
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI _m =0.57	5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用				3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			[BEI][BEI _m]: 0.61	4.9	0.50	-	-	4.9
4 効率的運用				3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価				3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-		
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-		
集合住宅の評価			-	-	-	-		
4.1	モニタリング		-	-	-	-		
4.2	運用管理体制		-	-	-	-		
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.3	
1 水資源保護				3.4	0.20	-	-	3.4
1.1	節水		節水コマ、節水型機器、擬音装置	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				3.4	0.60	-	-	3.4
2.1	材料使用量の削減		— 再生クラッシュラン、再生密粒度アスファルト混合物 軽鉄下地、置床	2.0	0.10	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			4.0	0.20	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み			5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.3	0.20	-	-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				3.5	0.70	-	-	
1	消火剤			-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		ノンフロン断熱材使用	4.0	0.50	-	-	
3	冷媒			3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.2	
1 地球温暖化への配慮			LCCO2排出率:83%	3.6	0.33	-	-	3.6
2 地域環境への配慮				3.0	0.33	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.2	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減			3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制		駐輪・駐車スペース確保、導入路の配慮、管理用車両スペース確保	5.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制			2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮				3.1	0.33	-	-	
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40	-	-	
1	騒音			3.0	1.00	-	-	
2	振動			-	-	-	-	
3	悪臭			-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				2.6	0.40	-	-	
1	風害の抑制			3.0	0.60	-	-	
2	砂塵の抑制			1.0	0.20	-	-	
3	日照障害の抑制			3.0	0.20	-	-	
3.3 光害の抑制				4.4	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		光害対策ガイドラインのチェックリストの過半を満たす、広告照明なし	5.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	

熊本県重点評価結果 スコアシート ※手動入力は不要		実施設計段階
建物名称	(仮称)天水小学校	

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版

熊本県重点評価結果				総合評価点		83
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				98	0.40	39.20
Q1-2.1.2	外皮性能	1.0	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.05			
Q1-3.2.1	昼光制御	4.0	0.05			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	5.0	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	4.9	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	5.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				62.5	0.20	12.50
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.0	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				75	0.20	15.00
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.20			
LR2-1.1	節水	4.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	2.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				80.2	0.20	16.04
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	2.8	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.4	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	4.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。
 ※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数

■ 環境関連の配慮事項

(仮称)天水小学校

印刷:モノクロ
設定済み

- ・適宜、箇条書き等で記入してください。
- ・キーボード操作:改行の際は【Alt】キー&【Enter】キーで次の行に進みます。

計画上の配慮事項		※必ず、何らかのコメントを記入してください。
総合	既存中学校と同敷地への小学校の増築の為、それぞれの動線を考慮した配置・平面計画とした。 また、対象地は浸水区域に該当しており、災害時の避難場所の確保が必要となる。そのため、RC3階建ての屋上は押さえコンクリート防水を採用し、設備機器及び設備基礎等を配置しないことで、災害時の広い避難空間を確保する計画とした。	
Q1 室内環境	・F☆☆☆☆建材を使用。 ・自然光を取り入れ、日中の照明不可を軽減。 ・高効率機器を採用し、エネルギー使用量を抑制。	
Q2 サービス性能	・設備配管部分はメンテナンスに配慮し、ピット等を設ける計画とした。 ・各所に設けたPSは点検口ではなく扉を設けることで、メンテナンス性を向上させた。	
Q3 室外環境 (敷地内)	・建物外部には防犯性に配慮し、監視カメラを設置する計画とした。	
LR1 エネルギー	・各種設備機器は高効率機器を採用する。 ・バルコニー、庇を設け、下記の日射熱負荷を抑制した。	
LR2 資源・マテリアル	・各種設備機器は高効率機器を採用する。 ・熱橋部分には断熱材吹付を行い、温熱環境に配慮した。	
LR3 敷地外環境	・中学生が使用する駐輪場は中学校側に配置する計画とし、できるだけ小学生の動線と交錯しないよう配慮した。 ・消防車の進入口は正門とは別に計画することで、周辺道路及び通行の安全性に配慮した。	
その他	特になし	